



1 第109号住居跡出土土師器
(第245图5)



6 第111号住居跡出土土師器
(第248图4)



11 第112号住居跡出土土師器
(第250图3)



2 第110号住居跡出土土師器
(第246图1)



7 第111号住居跡出土土師器
(第248图5)



12 第113号住居跡出土土師器
(第251图1)



3 第110号住居跡出土土師器
(第246图2)



8 第111号住居跡出土土師器
(第248图6)



13 第113号住居跡出土土師器
(第251图2)



4 第111号住居跡出土土師器
(第248图1)



9 第111号住居跡出土土師器
(第248图7)



5 第111号住居跡出土土師器
(第248图2)



10 第112号住居跡出土土師器
(第250图2)



14 第114号住居跡出土土師器
(第253图1)



1 第 114 号住居跡出土土師器
(第 253 图 2)



2 第 114 号住居跡出土土師器
(第 253 图 3)



3 第 114 号住居跡出土土師器
(第 253 图 4)



4 第 114 号住居跡出土土師器
(第 253 图 5)



5 第 114 号住居跡出土土師器
(第 253 图 6)



6 第 114 号住居跡出土土師器
(第 253 图 7)



7 第 114 号住居跡出土土師器
(第 253 图 8)



8 第 114 号住居跡出土土師器
(第 253 图 10)



9 第 114 号住居跡出土土師器
(第 253 图 11)



10 第 114 号住居跡出土土師器
(第 253 图 12)



11 第 114 号住居跡出土土師器
(第 253 图 13)



12 第 120 号住居跡出土土師器
(第 255 图 3)



13 第 120 号住居跡出土土師器
(第 255 图 4)



14 第 120 号住居跡出土土師器
(第 255 图 5)



1 第5号方形周溝墓出土土師器
(第259图1)



2 第5号方形周溝墓出土土師器
(第259图2)



3 第5号方形周溝墓出土土師器
(第259图3)



4 第5号方形周溝墓出土土師器
(第259图4)



5 第707号土壙出土土師器
(第265图1)



6 第742号土壙出土土師器
(第265图3)



7 第754号土壙出土土師器
(第265图4)



8 東の谷出土土師器 (第281图1)



9 東の谷出土土師器 (第281图2)



10 東の谷出土土師器(第281图3)



11 東の谷出土土師器(第281图4)



12 東の谷出土土師器(第281图6)



1 東の谷出土遺物 (第 281 図 8)



2 東の谷出土遺物 (第 281 図 9)



3 東の谷出土遺物 (第 281 図 10)



4 東の谷出土遺物 (第 281 図 11)



5 東の谷出土遺物 (第 281 図 12)



6 東の谷出土遺物 (第 281 図 13)



7 東の谷出土遺物 (第 281 図 14)



8 東の谷出土遺物 (第 281 図 15)



9 東の谷出土遺物 (第 281 図 16)



10 東の谷出土遺物
(第 281 図 17)



11 東の谷出土遺物
(第 281 図 18)



12 北の谷出土土師器 (第 292 図 5)



13 東斜面出土土師器 (第 293 図 1)



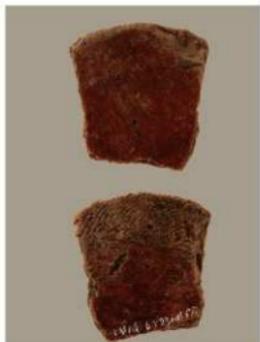
14 東斜面出土土師器 (第 293 図 2)



15 東斜面出土土師器 (第 293 図 3)



16 東斜面出土土師器 (第 293 図 5)



1 東斜面出土土師器(第 293 图 6)



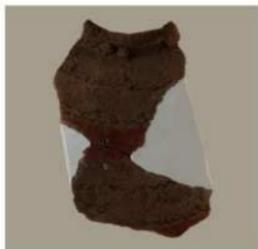
2 東斜面出土土師器(第 293 图 7)



3 東斜面出土土師器(第 293 图 8)



4 東斜面出土土師器(第 293 图 9)



5 東斜面出土土師器
(第 293 图 10)



6 東斜面出土土師器
(第 293 图 11)



7 東斜面出土土師器
(第 293 图 13)



8 東斜面出土土師器
(第 293 图 14)



9 東斜面出土土師器
(第 293 图 15)



10 東斜面出土土師器
(第 293 图 16)



11 東斜面出土土師器
(第 293 图 18)



12 東斜面出土土師器
(第 293 图 19)



13 東斜面出土土師器
(第 293 图 20)



14 東斜面出土土師器
(第 293 图 22)



1 東斜面出土土師器
(第293図24)



2 東斜面出土土師器
(第293図25)



3 西斜面出土土師器(第294図1)



4 西斜面出土土師器(第294図2)



5 西斜面出土土師器(第294図3)



6 西斜面出土土師器(第294図4)



7 遺構外出土土師器(第295図1)



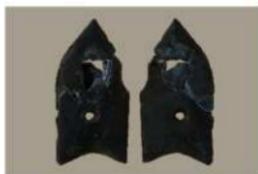
8 遺構外出土土師器(第295図3)



9 遺構外出土土師器(第295図4)



10 遺構外出土土師器(第295図5)



11 西斜面出土磨製石鏃(第294図6)

- 1 第101・103・110～112号
住居跡・第5号方形周溝墓
出土土玉
(第224・229・246・248・250・259図)



- 2 東の谷・西斜面・東斜面出土
土玉 (第281・293・294図)



- 3 古代・中世以降の出土遺物
(第303・305・308図)





縮尺：約 1/8

1 東の谷杭列出土木製品 (第 275 図)



1 東の谷杭列・木製品集中地点出土木製品 (第 276・282・283 図)

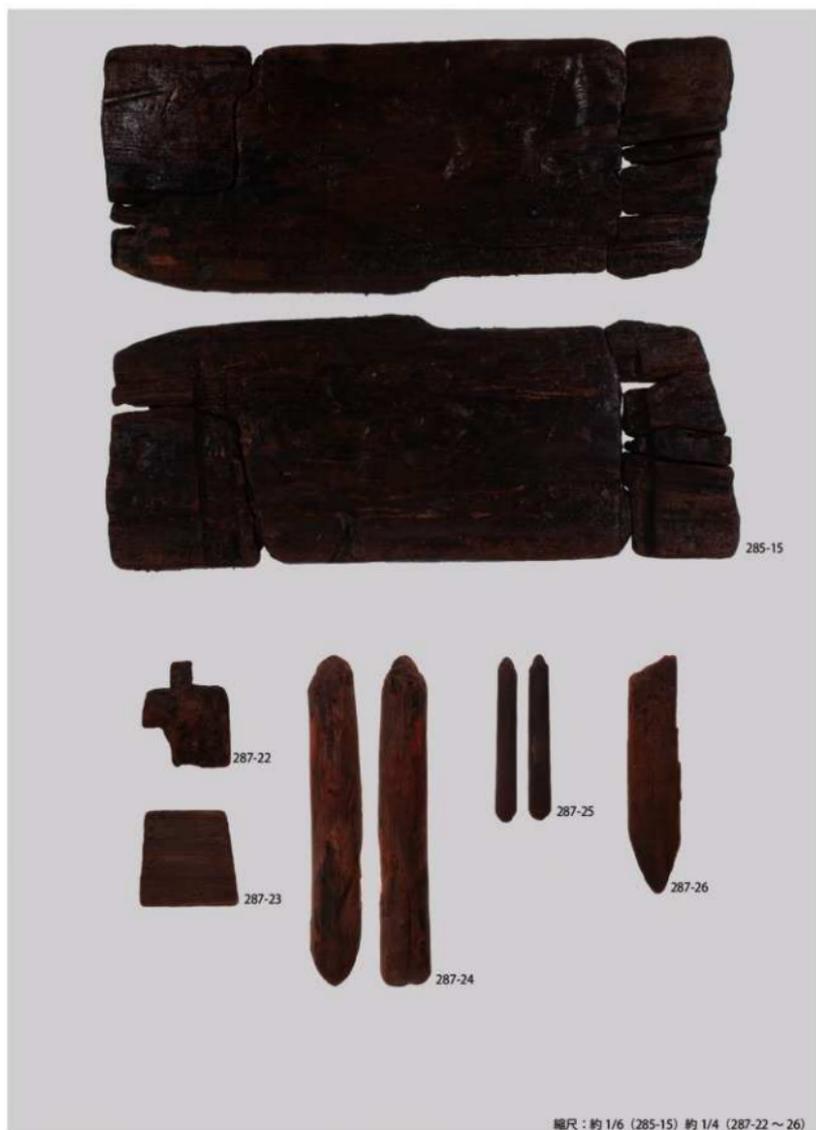


1 東の谷木製品集中地点出土木製品 (第 283・284 図)



縮尺：約 1/10 (286-16・17) 約 1/6 (286-18・287-27) 約 1/14 (286-19) 約 1/8 (286-20・21) 約 1/4 (287-28)

1 東の谷木製品集中地点出土木製品 (第 286・287 図)



縮尺：約 1/6 (285-15) 約 1/4 (287-22 ~ 26)

1 東の谷木製品集中地点出土木製品 (第 285・287 図)



1 第6・7号木組遺構・北の谷・西斜面出土木製品 (第290・291・292・294図)

報告書抄録

| ふりがな | おぼやしはっそくいちいせきよん | | | | | | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-------|--------|------------|---------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 書名 | 小林八東1遺跡IV | | | | | | | |
| 副書名 | 総合交付金(河川)工事(小林調節池)埋蔵文化財発掘調査報告 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第476集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 加藤 隆則 | | | | | | | |
| 編集機関 | 公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1 TEL. 0493-39-3955 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦2022(令和4)年3月22日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 °' " | 東経 °' " | 調査期間 | 調査面積 (㎡) | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| おぼやしはっそくいちいせきよん 小林八東1遺跡 (第5次) | さいたまけんくきし 埼玉県久喜市 しやうぶまちおぼやし 富満町小林 あざひつちく 字八東4795番 ちほか 地他 | 11232 | 044 | 36°03'28" | 140°04'03" | 20141001~ 20150327 | 2,200 | 調整池 建設 記録保存 調査 |
| おぼやしはっそくいちいせきよん 小林八東1遺跡 (第6次) | さいたまけんくきし 埼玉県久喜市 しやうぶまちおぼやし 富満町小林 あざひつちく 字八東4805番 ちほか 地他 | 11232 | 044 | 36°03'26" | 140°05'58" | 20170703~ 20180331 | 4,430 | 調整池 建設 記録保存 調査 |
| おぼやしはっそくいちいせきよん 小林八東1遺跡 (第7次) | | | | | | 20180401~ 20190131 | | |
| 所収遺跡 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | 特記事項 | | |
| 小林八東1遺跡 (第5~7次) | 集落跡 | 縄文時代 | 住居跡 | 2軒 | 土器・土製品・ 石器・石製品・ 木製品 | 台地縁辺に住居や土壌からなる 堀之内式期の集落を検出。低 地部は谷と斜面があり、斜面部 は後期から晩期の遺物包含層が 形成される。東の谷は自然地形 を大幅に改変し、後期前葉から 晩期中葉頃までの木組遺構や木 道状遺構といった水場遺構を形 成。 | | |
| | | 古墳時代 | 焼土跡 | 2基 | | | | |
| | | | 集石 | 1基 | | 方形周溝墓 | 1基 | 台地縁辺では、南側から続く 古墳前期の集落跡を検出。集落 域はその後、方形周溝墓からなる 墓域へ移行する。東の谷では 杭列や木製品集中を検出したほ か、北の谷では木組遺構を検出 した。 |
| | | | 土壌 | 59基 | | 溝跡 | 5条 | |
| | | | 溝状遺構 | 1条 | | 土壌 | 23基 | |
| | | | ピット | 47基 | | ピット | 65基 | |
| | | | 水場遺構 | 1箇所 | | 杭列 | 1基 | |
| | | | 木組遺構 | 3基 | | 水場遺構 | 2箇所 | |
| | | | 木道状遺構 | 2基 | | 杭列 | 1基 | |
| | | | 導水溝状遺構 | 3条 | | 木製品集中 | | |

| 所 取 遺 跡 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特 記 事 項 | |
|--------------------|-----|------|-------------------------|----------------------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 小林八東1遺跡 (第5～7次) | 集落跡 | 古代 | 炭焼窯跡 土壇 溝跡 ピット | 4基 3基 1条 6基 | 須恵器 | 台地の縁辺で炭焼窯跡4基を 検出。1基は単独、ほか3基は 古い窯跡を利用しながら築窯さ れている。 堆積の進んだ斜面に溝が形成 された。 |
| | | 中・近世 | 溝跡 土壇 | 6条 1基 | 陶器・磁器・獣 骨 | |

要 約

小林八東1遺跡は、埼玉県東部の大宮台地に位置し、埋没したローム台地上に形成されている。遺跡形成後の地盤の沈降現象と後世の沖積作用の結果、遺構面は現地表から2m下で見つかった。これまでに第1～4次調査が実施され、第356集、第442集、第457集の3冊が刊行されている。今報告は第5～7次の調査成果である。

第5～7次調査区は遺跡範囲の北側に位置し、西側は第2次と、東側は第3・4次調査区と隣接する。調査の結果、南側から続く台地の縁辺（北面する緩斜面）や、これを東西に分断する、北向きに開口する谷地形（東の谷と北の谷）などの複雑な地形が現われ、縄文時代から中世にかけて、地形に応じた様々な土地利用の痕跡が残されていた。

縄文時代の遺構は、台地側では後期前葉の住居跡、早期～後晩期の土壇やピット、焼土跡や集石遺構を検出した。一方、低地部の東の谷には、クルミやクリ等の多量の堅果類や、流水環境を思わせる砂粒を多く含んだ黒色の粘質土中に、縄文時代後期前葉から晩期中葉頃の木組遺構や木道遺構をはじめとする木組施設や、導水溝や開削溝（流路底面の大規模な掘削痕）といった水場を維持するための多様な痕跡を確認した。谷に面する白色粘土の露頭には後晩期の粘土採掘坑と見られる土壇群も形成された。斜面地は東の谷で分断され、東側（東斜面）には後期前葉頃の、また西側（西斜面）には後期前葉から晩期中葉頃までの遺物包含層が形成されていた。

古墳時代前期は、南側の第3・4次調査区から連続する住居跡や方形周溝墓を確認した。両者の重複関係から、当該地点が居住域から墓域へ変遷したことが確認された。なお、墓域は今報告の調査区内で完結し東方へは延びないが、居住域はさらに東方へ延びていくことが確実視される。低地部では、東の谷と北の谷に水場遺構が形成された。このうち東の谷の水場遺構は、縄文後晩期の水場遺構の埋積後の上部に形成されたものである。この頃の水場の環境は、縄文期のような、水が常時こんこんと湧き出す環境ではなく、帯水（低湿地）環境にあったようで、湧水点付近には土橋状の木組遺構（第457集）、また下流部には谷を横断する杭列が位置し、その間には土師器を含む多量の木質遺物が残されていた。木製品は農耕工具や建築材を中心に、未製品や被熱した材、自然木等を多数含んでおり、谷部の湿地を利用した貯木場のような機能が想定される。

奈良・平安時代の遺構は台地の縁辺で、斜面下方に開口する炭焼窯跡を4基検出した。第2号炭焼窯跡は単独で、第3～5号炭焼窯跡は重複関係がある。既存の炭焼窯跡と前庭部を共有する、廃絶後の炭化室を新窯の前庭部として利用するといった、新窯構築時の特有のあり方を見せ、大宮台地の周辺事例との共通性を見せている。

古代末以降、当該地点における人的痕跡は少なくなり、中世以降は、東斜面に数条の溝や土壇が形成されたに過ぎない。遺物も斜面地で数片の陶磁器類を検出するのみである。この頃、遺跡周辺での堆積環境が大きく変化したらしく、それまでの黒色土（基本層Ⅲ層）に代わり、灰褐色土（同Ⅱ層）が遺跡全体を覆う。台地部では分厚いシルト土として現れ、低地部では有機物を多く含んだ粘質土と砂質土の薄層の互層として観察される。低地部では3～4m近く堆積し、江戸時代の中頃（天明期）までには、辺り一帯が微窪地となったことが、上部に堆積するAs-A（浅間A軽石）により明らかとなった。

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第476集

小林八束 1 遺跡Ⅳ

総合交付金（河川）工事（小林調節池）

埋蔵文化財発掘調査報告

（第2分冊）

令和4年3月15日 印刷

令和4年3月22日 発行

発行／公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 熊谷市船木台4丁目4番地1

0493（39）3955

<https://www.saimabun.or.jp>

印刷／朝日印刷工業株式会社